

核のない世界をめざすグローバル・ヒバクシャ・フォーラム声明

私たち日本、オーストラリアおよびタヒチのグローバル・ヒバクシャは、2011年1月23日から2月5日までピースボート船上に集い、証言、情報、そして核のない未来へのビジョンを共有しました。私たちは、下記の声明文に関して合意に達し、さらに、相互に協力とネットワークを強化することで共通の目標を達成すべく、交流を続けます。

被爆者とは、66年前、広島・長崎における核兵器による無差別攻撃を経験した人びとを指す言葉です。現在では、被爆2世や3世も存在します。これらの人びとは、父母、または祖父母の放射線被曝による、世代を超えた遺伝的影響に見舞われています。

被爆者は、差別に苦しみ続けてきました。それにもかかわらず被爆者は、その恐ろしく、残酷な核兵器を二度と使用してはならないということを忍耐と強さと決意をもって語り続けてきました。そして勇敢にも、1945年8月6日・8月9日に起きたことを繰り返し追体験し続けてたのです。それは称賛に値するものであり、その活動は奨励され、証言は記憶されるべきです。私たちは、私たちそれぞれの国の学校に、真の平和教育を求める呼びかけに加わります。核兵器禁止条約を通じて、大量破壊兵器に関するハンス・ブリックス委員会¹が「テロ兵器」と断定した核兵器を完全廃絶しようとする訴えに加わります。

私たちは、「グローバル・ヒバクシャ」という言葉の意味を、核の連鎖の全ての段階—ウラン採掘、原子炉、原発事故、核兵器開発・実験、そして核廃棄物—における、放射線の被害者、と定めます。とりわけ先住民族たちは、ウラン採掘、核実験、そして核廃棄物の投棄の標的となるという、放射線の人種差別を受けてきました。このことにより、先住民族は、土地、水、文化、経済状況、そして健康を害されてきました。

放射線は、私たちのDNA—細胞に含まれる遺伝子物質—を傷つける有害物質です。核時代は、空気に混入して人体に吸い込まれ、また、地下水や、人間の遺伝子給源に入り込むような放射線を出現させました。これらの放射線の特徴は、自然に発生するバックグラウンド放射線とは完全に異なるものです。核実験は、土地や海を越えて放射線の毒をまき散らし、ポリネシアではモロアおよびファンガタウファ周辺の環礁崩壊の危機を引き起こしているように、現在も続く危険性をもたらしています。原子炉は、常に放射線を発生させています。核廃棄物の滞積量は毎日増え続けており、そこには25万年間有毒性を失わないプルトニウムが何トンも含まれています。

核の連鎖は、埋蔵ウランを探す穿鑿作業から始まって、すべての段階において放射線を発生させています。次世代を守り、未来のヒバクシャを出さないために、私たちは、さらなる放射線を発生させることをやめ、その発生源をすべて段階的に止めていかなければなりません。私たちは、持続可能な未来のために、再生可能でクリーンなエネルギーに投資するべ

¹ スウェーデン政府が支援しハンス・ブリックス博士が議長をつとめた国際有識者委員会「大量破壊兵器委員会」は、2006年6月に最終報告書「Weapons of Terror (テロ兵器): Freeing the World of Nuclear, Chemical and Biological Arms」を発表した。その英語版、フランス語版その他各国語版は、www.wmdcommission.org から入手できる。日本語版は『大量破壊兵器 廃絶のための60の提言』(岩波書店)。

きです。

私たちの政府は、放射線に関する正しいデータを提供せず、その代わりに、公式な否定や、自らの利益のための情報統制、そして恥ずべき行為に対する賠償の拒否ばかり行ってきました。各国政府は、広島と長崎、ファンガタウファとモルロア、そしてマラリングアに関する公文書をすべて透明化し、そこでもたらされた被害と死傷者に対する責任を受け入れるべきです。核に関する諸活動の影響、そして核の脅威を解消することは、私たちの生存に関わる問題です。真実に基づく情報がなければ、核がもたらす危険や環境破壊を封じ込めることも、人が病に冒され死んでいく状況を受け入れることもできません。

私たちは、以下のことを切に要請します。

- 各国政府が、2015年までに最終的な条約をNPT再検討会議に提出し、2020年までに核廃絶プロセスを完了させることを目指して、ただちに核兵器禁止条約に関する交渉を開始すること。
- すべての市民団体、NGO、メディア、若者グループ、宗教団体が、核のない世界への努力をさらに倍加させること。
- 責任のある国の政府が、核を用いた犯罪的行為に対して公式な謝罪をすること。
- 各国政府が、放射線被曝に関する全ての医療・環境関係記録を公開すること。
- 核時代に関する真実を含め、平和教育が公式な学校カリキュラムの一部となること。
- 全てのグローバル・ヒバクシャに、正当な補償と、国の助成による正当な医療措置を提供すること。
- 真実、正義、被害者としての認定、補償、汚染された環境の浄化や医療手当などを求めてグローバル・ヒバクシャが起こしている裁判に対して、市民社会による支援を広げると共に、政府が誠実に対応すること。
- 各国政府は、核による事故や事件の被害を受ける可能性のある人びとに対し、公共の不測事態対応および避難計画を策定すること。
- 戦争放棄を定めた日本国憲法9条を保持し、他の全ての国の憲法に同様の条項の導入し実施すること。
- 世界中で使われている1.5兆ドルの軍事予算を、保健および教育また気候変動や貧困など、私たちが直面する、本当の意味での安全保障に対する危機に取り組む政策に使うよう振り替えること。

ノーモア・ヒバクシャ!ノーモア・グローバル・ヒバクシャ!
ノーモア・ヒロシマ!ノーモア・ナガサキ!ノーモア・ウオー!

2011年2月5日 ピースボート上にて採択
パペーテ、タヒチ

若者共同声明

私たちはピースボートのおりづるプロジェクトに参加すべく、2011年1月23日から2月5日の間、日本、オーストラリア、タヒチから集いました。

互いの国について、またそれがどのような核の問題を抱えているかを学び、問題の所在とその解決策を特定しました。核のない未来を実現していかなければなりません。

私たちは今こそ地球規模での核の問題について話し、教え、学び合い、真剣に向き合うときであると強く信じています。そのためには、この核の時代の偏った情報操作や人々の無関心を打ち砕くという意味でも、学校や共同体での教育が不可欠です。

核兵器のある時代に生まれた世代として、私たちは人体や環境への放射能の脅威に直面せざるをえません。これを自分たちのこととして懸念するだけでなく、66年前から続く過ちを次の何世代にもわたって継承してしまうことであると考えべきです。核兵器と放射能の恐ろしさを伝えていかなければなりません。私たちの願いは、次の世代のための平和な世界です。

私たちは国境を越えた学生によるネットワークを築き、それぞれの活動拠点で得た情報を頻繁に共有していきたいと考えます。例えば日本の高校生平和大使による1万人署名運動といった既存の活動を広げる、あるいは世界規模のネットワークを築くなどです。また核兵器廃絶の必要性とその緊急性を訴えるためのドキュメンタリー映像、アニメ、マンガ、ウェブサイト、歌や本を製作したいと考えます。

「安全保障」という言葉が核兵器を正当化するのに使用されています。核兵器のある世界には国の安全も人々の安全も存在しません。ひとつの国が核兵器に固執すれば、別の国も保有するようになるでしょう。ドミノ倒しのように続くこの連鎖を断ち切らなければなりません。

政府、政治家は核軍縮問題に最優先に取り組むべきです。また情報を隠し、診断書を「極秘情報」とするのではなく、核による被害者の存在、また彼らの権利を承認しなければなりません。核による被害者は、適切な賠償を受けるべきです。現在の賠償は不十分もしくは存在していません。

過去の放射線汚染そして今日までに生み出された原子力産業から出た放射能廃棄物は、人体や継承文化を含む生態系に関わるもの全てに影響を与えます。

原子力産業は放射線漏れのリスク、地震、津波、珊瑚礁や海洋生態系の汚染をもたらします。私達は互いに協力し合い、被害地域の清掃や核問題について話し合うこと、また健康と環境への影響、危険性を広く伝えることで、影響を最大限防ぐことができます。

核問題の危険性をまったく知らないがため、若者達の中には、核問題に関わりをもつことをためらう人もいます。

私達の目標は、ネットワークを広げること、また楽しい企画を通して危険性を広く伝えていくことで、若者の参加を促進することです。国際的にも、それぞれの地域でもさらに力強い存在となり、これを実現したいです。

言語や異なる文化背景があっても、私達はこの問題に、共に、一つになって取り組むことができると信じています。ノーモア言い訳!ノーモア無知!変化を起こそう!

2011年2月5日採択

グローバル・ヒパクシャ・フォーラム若者グループメンバー
パペーテ、タヒチ

おりづる太平洋プロジェクト

横浜～タヒチ・パペエテ市

2011年1月23日 - 2月5日

参加者一覧

オーストラリア

デラ・レイ・モリソン	西オーストラリア非核連合
フェリシティ・ヒル	スコット・ラDRAM上院議員 政策顧問
ベロニカ・ウェリングス*	グンジェイツミ先住民族法人
ベルナディン・ハーディー*	グンジェイツミ先住民族法人
フレア・アルダーソン*	グンジェイツミ先住民族法人

タヒチ

レジス・ハアマルライ・グディング	ムルロアと私たち、元核実験場労働者
ハイアバ・ミルナ・ルノアール	ムルロアと私たち
テバ・ドゥーム*	
アラン・テアヌアヌア・グディング*	核実験労働者 2 世
マルク・ピュジベ*	

日本

ヒバクシャ地球一周 証言の航海 参加者

深堀柱 (ふかほり あきら)	
平井昭三 (ひらい しょうそう)	
西田吾郎 (にしだ ごろう)	
奥村英二 (おくむら えいじ)	
末永浩 (すえなが ひろし)	
高橋節子 (たかはし せつこ)	
田崎昇 (たさき のぼる)	
壺井進 (つばい すすむ)	
山中恵美子 (やまなか えみこ)	
丸尾育郎 (まるお いくろう)	被爆 2 世
阪口博子 (さかぐち ひろこ)	被爆 2 世

高校生平和大使

今野英里子 (こんの えりこ) *
大神櫻子 (おおがみ さくらこ) *
佐生悠香 (さそう はるか) *
鈴木慶爾 (すずき けいじ) *
山口真莉絵 (やまぐち まりえ) *

フォーラム主催 - ピースボート

川崎哲 (かわさき あきら)
石井麻里子 (いしい まりこ)
ロア・ノレスト
上泰歩 (うえ やすほ)

コミュニケーション・コーディネーター

ソフィア・スワンソン、岩本紀子 (いわもと のりこ) *
小笠原純恵 (おがさわら すみえ)、大崎稲穂 (おおさき いなほ) *
写真及び映像担当
梅若猶巴 (うめわか なおとも)

*若者グループメンバー